

ひき岩群 国民休養地

[※ 実施日—2025年2月11日(火)]



(ハイライトシーン)

※弥生班 計7名

① (ひき岩群登山口)

② (第一展望)



⑤ (口熊野の絶景)

④ (ひき岩頂上)

③ (第二展望)



⑥ (尾根を行く)

⑧ (岩屋観音の新新国三十三番霊場めぐり)



⑦ (岩屋観音)

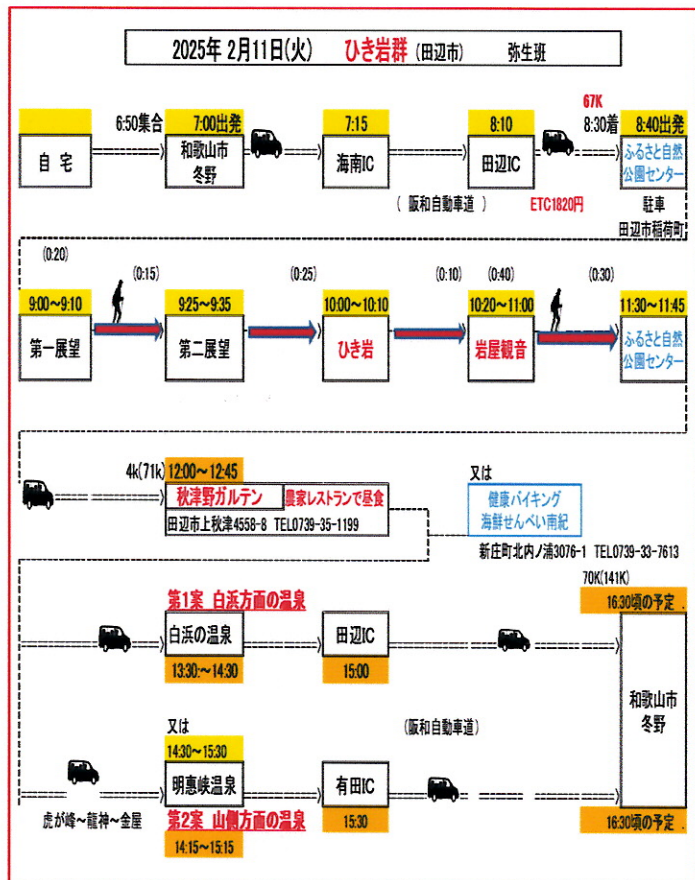


ひき岩群国民休養地 (田辺市)

紀峰山の会 (弥生班)

※(山行日) -----2025年2月11日(火)

※(行程) [予定]



(メンバー) -----計7名

(弥生班)---木村、中濱、大野、八木、山本、岡本、有本

※[はじめに]

(ひき岩群国民休養地)

○田辺市街地から5kmほど離れた丘陵地に、奇怪な形の岩山が並んでいるのが「ひき岩群」。砂岩地帯で剥き出しの岩が無数に点在しており、100m足らずの高さですが、それぞれ北側の斜面が絶壁となっている。この岩山を遠くから眺めると、まるでひきがえるの群れが天を仰ぐように見えることから「ひき岩群」と名付けられたとされています。

○「国民休養地」とは、自然とのふれあいが少ない都市やその近郊の人々に、ハイキングなど単なる一時的なレクリエーション活動の場を提供するだけでなく、そこに生きる植物等と人間との調和のあり方、また自然の保護育成に関して考える機会を作るための場所となることを目的としています。

(岩屋観音)

○田辺市の岩屋山中の大きな岩屋に本尊の観世音が祀られているため、岩屋観音と呼ばれ、観音様からさらに階段を上って行くと、裏山へと続き、その先に設けられた新西国三十三番霊場めぐりの遊歩道が整備されている。

※ (ひき岩群のロードマップ)



(写真1) (ひき岩群の登山口)



・和歌山を午前7時出発、現地8時間半到着。ラジオ体操で体を解し、登山口へ

(写真2) (第一展望)



・登り始めて20分で田辺湾が見える第一展望に到着。

(写真5) (ひき岩群の頂上--その1)



・カエルの肌のようなイボイボ岩を登る。

(写真3) (林道)



・第一展望から第二展望へ行くには下山し林道を進む。

(写真6) (ひき岩群の頂上--その2)



・遠くまで展望が開ける。

(写真4) (第二展望)



・前方は、絶壁で腰が引ける。

(写真7) (尾根を行く--その1)



・登山道がよく整備されている。

(写真 8) (尾根を行く--その 2)



(写真 11) (田辺湾をバックに)



(写真 9) (岩屋観音)



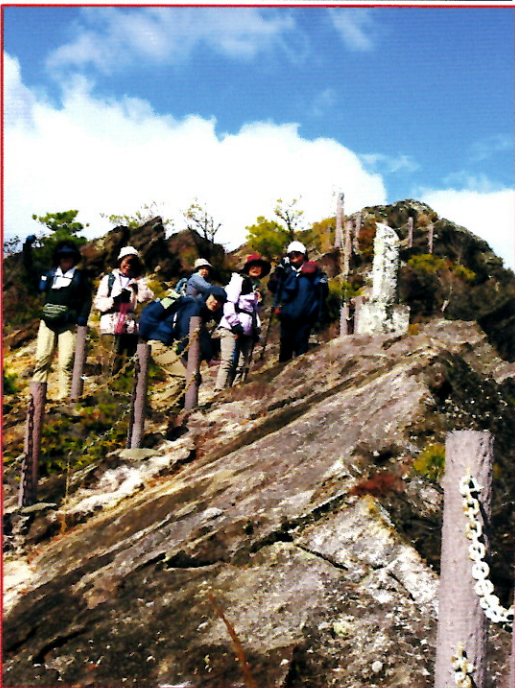
・岩壁の洞穴にある観音堂。

(写真 12) (健康バイキングで昼食)



- ・山行後、白浜で健康バイキングで昼食。満腹後も別腹でデザートを楽しむ。
- ・食後は、堅田の湯で入浴し、17時に帰着。

(写真 10) (新西国三十三番霊場めぐり)



・岩屋観音の裏山には、石仏を祀った新西国三十三番霊場がある。

[最後に]

- 極寒時期であったが、当日はよく晴れ快適な山行ができました。
 - ひき岩群全体は、よく整備されており変化に富んだコースで展望が開け、田辺湾や白浜方面の景色が楽しめ、爽快感があった。
 - 岩屋観音では、約1時間程度の遊歩道散策で新西国三十三番霊場めぐりができ、神聖な気持ちとなった。
 - 今回の山行は、余裕のある行程の中、口熊野の景観に感動し、また昼食のバイキングでは多種多様な料理とスイーツで満腹となり、その後は温泉で汗を流して山行の余韻に浸ることができ、満足の旅でした。
-